

一誌一句(受贈誌7・8月号他より)

米田透抄出

嫁島の秘話をひもどく春の夜

(ひこばえ)

月森遊子

夜光虫が銀河の如し楸邨忌

(笏)

山本一步

ゆつくりとトラムの通る夜店裏

(森)

森野稔

目を奪ふいまがさかりの更紗木瓜

(多磨)

関成美

外輪も主峰も弥生山となる

(松の花)

松尾隆信

蜻蛉生まるしづかに湧ける伏流水

(暖響)

江中真弓

白花を統べ睡蓮の赤一花

(百鳥)

大串章

子の髪の毛のさらりと乾く涼夜かな

(朱雀)

田中春生

シャワー出てまた新鮮な汗をか

(濃美)

渡辺純枝

卵の花や滑走路ある河川敷

(湧)

渡井一峰